



全国連合退職校長会

会報

第五十三回 総会挨拶

全国連合退職校長会

会長 戸張 敦雄



心地よい緑の風が体感できる今日の佳き日、全連退の副会長、監事並びに各都道府県退職校長会53団体の代議員各位のご出席を得て、平成29年度 第53回全国連合退職校長会総会を開会いたしました

ころ、文部科学大臣松野博一様代理、文部科学省初等中等教育局視学官長尾篤志様をはじめ、教育関係諸団体の方々、報道各社の代表の方々等多くの皆様のご臨席を賜り、錦上花を添えていただきました。誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

教育界では、昨年末から今年にかけて多くの重要な法令が成立・施行されました。中でも、義務標準法の一部改正については、全国連合退職校長会の文部科学大臣あての要望書に毎年欠かしたことの多い内容で、この法律の一部が改正され、施行されたことに達成感に似た感動を覚えまして。会員各位や教育関係23団体の皆様の御支援に感謝いたします。

次に「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的な深い学びに向けた授業改善」等を目指した学習指導要領には、総則の前に「前文」が示され

ました。全連退として、「前文」にあります「児童生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え」に着目し、人的・物的教育環境の整備・充実に尽力してまいります。

この4月28日、文部科学省は、平成28年度の「教員勤務実態調査」の集計速報値を発表しました。

松野文部科学大臣は、「看過できない深刻な事態が、客観的なエビデンスとして裏付けられた」と語られ、中教審への諮問へ言及されました。

全連退は、昭和46年に制定された、いわゆる給与特別措置法や、教員に超過勤務を命じることができる4項目を示した政令（平成15年4月1日施行）等を抜本的に見直すと共に、教職員数の不足解消、教員の労働時間管理の適正化等に係る意見を、近く実施される「教員の働き方改革に向けた論点整理のためのヒヤリ

ング」の場で申し述べるとともに、これからも要望や意見を関係省庁へ具申し続ける所存であります。

平成29年度の全国連合退職校長会は、今日の総会でお決めたべく、目標、予算、各部・各委員会の事業計画に則り、いっそうの存在感を高める活動を展開してまいります。特に、平成30年度の文部科学省初等中等教育局への予算要望や本会の念頭である「教育の日」の祝日化については、多くの国会議員の方々への要望や教育関係諸団体の皆様方との協力に、一段と力を注いでまいります。

結びに、新しい風に帆を挙げ、進路を違えず、会員各位の知恵と工夫をいただきながら、心構えを正して先頭に立ち、事業を推進していくことをお約束いたします。全国の約9万にのなんなんとする会員各位の益々の本会へのご協力を願って、挨拶といたします。

祝 辞

文部科学大臣 松野 博一様
(代読) 初等中等教育局視学官

長尾 篤志様



平成29年度全国連合退職校長会総会が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、御出席の全国連合退職校長会会員の皆様には、長年にわたり学校運営の責任者として、学校教育の充実・発展のために多大の貢献をされ、現在もなお教育界の先達として御尽力いただいていることに對し、心から

敬意と感謝の意を表します。

さて、「人づくりは国づくり」です。日本の将来を担う子供たちは国の一番の宝であり、教育は国の根幹を形作る最重要政策です。豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちに、我が国のこれまでの教育実践の蓄積を活かし、急速に変化し予測不可能な未来社会において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成することが必要です。

そのため、文部科学省では、学校と社会が連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」を実現し、複雑・困難化する教育課題に対応する「次世代の学校」を創生するために、教員養成・採用・研修を一体として、教員の資質・能力の向上を図るほか、子供一人一人の学びを充実させるためのきめ細かな指導など、新学習指導要領等における指導や業務の在り方に対応する指導体制の充実を図ることとしてお

ります。

また、先般、障害に応じた特別の指導に必要な教員等についての基礎定数化や、学校の事務職員が主体的に校務運営に参画するよう職務規程の見直しや「共同学校事務室」の設置等についての法改正を行い、平成29年4月から施行されているところです。文部科学省としては、引き続き、学校の指導・運営体制を充実し、地域との連携・協働を含めた学校の運営の改善を図ることにより、複雑化・困難化する諸課題に対応する学校の機能強化を一体的に推進してまいります。

皆様におかれましても、教育に対する深い知識と経験を生かし、初等中等教育の発展のために一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本総会が、所期の目的を達成し多大な成果が得られますよう御期待いたしますとともに、全国連合退職校長会のおますの御発展と、御出席の皆様御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

全国校園長会長代表

全日本中学校長会

会長 直田 益明様

(代読)総務部長 石鍋 浩様



今年度、第41代全日本中学校長会会長を拝命いたしました東京都世田谷区立芦花中学校の直田益明でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日は、平成29年度第53回全国連合退職校長会総会が、かくも盛大に開催されますことについて、心よりお慶び申し上げます。本会会長でいらつしやいます戸張敦雄様はじめ役員の皆様、また関係の皆様には、日本の未来を担う日本人を育成する教

育の充実・発展のために全国的規模で精力的に活動を展開され、尽力されておられることにつきまして、深く敬意を表します。そして、私ども、現役の校長・園長が多大なお力添えを頂いておりますことに対し、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など、我が国の社会は大きく変化しています。教育界においても、教育再生実行会議の諸提言、義務教育学校などの制度構築、チーム学校やコミュニティ・スクールの推進等、さまざまな教育改革に向けた動きがある中で、平成29年3月には次期学習指導要領が告示され、小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度から全面実施の予定になっています。今後は、次期学習指導要領の理念の

実現に向け、今まで以上に様々な工夫が必要となってまいります。また一方では、学力向上、いじめ・不登校等の諸課題への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用をはじめ、複雑かつ多様な課題に対応することも求められています。

次期学習指導要領の実現のためには、私どもが全力で努力していくことは当然ですが、人的措置や教材準備のための予算など、教育環境の整備が十分に保障されていることも必要不可欠です。そのため、全日中や全国連合退職校長会などの教育関係団体は、教育の実践的専門集団として、学校教育に関する課題を収集・整理・分析し学校教育の充実のために還元することや、関係機関に意見具申などを行っていくことが大切であると考えております。

全国連合退職校長会の存在は、現職にある私どもにとって大変



来賓各位

心強い存在でもございます。今後子どもたちの輝く未来のために、積極的に取り組んでいくことをお誓い申し上げますとともに、皆様には、ぜひお力添えをいただきたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。結びになりましたが、全国連合退職校長会のますますの発展と皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。いただきます。

総会報告

日時 平成29年6月2日(金)

午前10時より

会場 江戸東京博物館
会議室出席者 正副会長、常任理事、
理事、監事、代議員等

125名

司会・進行 総務部長 入子祐三

1、開会の辞 副会長 樋浦晃治

2、国歌斉唱

指揮 中原慎三

3、全連退「綱領」の唱和

主唱 生涯福祉部長 岡野仁司

4、会長挨拶 会長 戸張敦雄

5、来賓祝辞

○文部科学大臣 松野博一様

(代理) 初等中等教育局視学官

長尾篤志様

○全国校園長会長代表

全日本中学校長会

総務部長 石鍋 浩様

6、来賓紹介

事務局長 徳永裕人

7、議長選出

前日の理事会で永峰 貴、西

輝昭の両副会長を選出

8、議事

第1号議案

平成28年度会務報告

総務部長 入子祐三

第2号議案

平成28年度決算報告

並びに監査報告

・決算報告

会計部長 三上裕三

・監査報告

監事

面 邦雄
(P 10)

第53回 全連退総会 (会場風景)

第3号議案

平成29年度役員の承認

その1 副会長の退任と就任

(東北地区)

大山明夫 ↓ 千葉 昭

(関東甲信越地区)

樋浦晃治 ↓ 木内芳則

(近畿地区)

橋本楯夫 ↓ 片山智成

(中国地区)

中原和昭 ↓ 鷺尾 実

(四国地区)

後藤忠雄 ↓ 溝渕正臣

(九州地区)

西平千治 ↓ 大森 勲



議長団

その2 監事の退任と就任

菊池成夫(岩手) ↓

佐藤俊市郎(福島)

高橋 基(長野) ↓

樋浦 晃治(新潟)

面 邦雄(福井) ↓

大塚 哲雄(静岡)

第4号議案

平成29年度活動目標案並びに

事業計画案

各部長・委員長から提案

(P 8・9)

第5号議案

平成29年度予算案

会計部長 三上裕三

(P 11・12)

第6号議案

「総会宣言」の採択

読み上げ 副会長 大山明夫

※各提案は原案通り承認されました。

8、感謝状及び記念品贈呈

(P 5)

9、閉会の辞

副会長 大森 勲

感謝状並びに記念品贈呈者

(1) 退任副会長

大山 明夫様 (東北)

樋浦 晃治様 (関東甲信越)

多田 丈夫様 (東京)

橋本 楯夫様 (近畿)

中原 和昭様 (中国)

後藤 忠雄様 (四国)

西平 千治様 (九州)

(2) 退任監事

菊池 成夫様 (岩手)

高橋 基様 (長野)

面 邦雄様 (福井)

(3) 退任常任理事

吉田 仁様 (茨城)

石田 和男様 (群馬)

清水 章夫様 (埼玉)

三本杉 伸様 (千葉)

大河内武久様 (神奈川)

山縣 永良様 (山梨)

野口 玲子様 (東京)

白石 裕一様 (東京)

(3) 退任理事

石井康太郎様 (青森)

西村 俣郎様 (岩手)

佐藤 重義様 (秋田)

小野 孝雄様 (福島)

落合 祥浩様 (滋賀)

森田 一三様 (大阪)

亀田 章道様 (大阪)

山崎 幸夫様 (兵庫)

上岡 正直様 (和歌山)

西村 英昌様 (鳥取)

岡田 浩明様 (岡山)

原田 力様 (広島市)

仲田 正夫様 (愛媛)

宮原 都明様 (佐賀)

宜寿次政昭様 (沖縄)

吉岡 正行様 (北海道)

黒田 貞夫様 (東京)



感謝状贈呈

記念講演 (午後1時～2時30分)

講師紹介

講師 東京国立博物館

館長 銭谷 眞美様

演題 「新学習指導要領に

ついて」



○入省から退官までの間、文部

省、文部科学省等の要職を歴

任されました。

さらに、中央教育審議会初等

中等教育分科会等において、

中教審答申作成に尽力されま

した。

・平成12年 教育改革国民会議

担当室長

・平成13年 文化庁次官

・平成16年 初等中等教育局長

・平成19年 文部科学事務次官

・平成21年 東京国立博物館

館長に就任

現在に至る

☆講演内容の要旨は次号に掲載

いたします。

略歴

・昭和24年 秋田県に生まれる

・昭和48年 東北大学卒業

文部省 (当時) に入省

・平成21年 文部科学事務次官

退官

全連退ホームページの表紙の

写真を募集します。

プリント写真またはメールで

3～5枚を本部事務局にお送

りください。

締切は、平成29年9月30日と

します。

平成29年度役員一覧

監事	常任理事														副会長	会長	本部
事																	
大樋佐 塚浦藤 哲見俊 雄治市 郎	藤崎武 利	三上裕 三	村山忠 幸	岡野昭 司	田中幸 光	大野幸 男	木山高 美	入子祐 三	丸田勲	須田清 士	齋藤隆 丈	多田美 夫	佐藤孝 作	石田孝 介	原塚秀 郎	石綿二 徳治	
静新福 岡湯島	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	新潟	山梨	神奈川	東京	千葉	埼玉	群馬	栃木	茨城

地区																					
理事(副会長) 理事					理事(副会長) 理事					理事(副会長) 理事					理事(副会長) 理事						
(近畿地区)					(東海北陸地区)					(関東甲信越地区)					(北海道地区)						
片山智成	長野光孝	佐藤榮一	山口節夫	上野清次	鈴木美文	加藤正躬	中塚博文	後藤忠喜	平瀬仁紀	上田清成	西田輝昭	木内芳則	大塚昌男	室井君男	大山明夫	泉瀬壽晋	佐瀬年永	千葉昭	奈良永昭	黒坂由紀子	永峰貴
滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	三重	愛知	静岡	岐阜	石川	富山	福井	千葉市	長野	福山	宮城	青森	秋田	北海道	北海道	

事務局員	事務局次長	事務局長	事務局	理事(副会長) 事										理事(副会長) 事				理事(副会長) 事			
				〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
				(九州地区)										(四国地区)				(中国地区)			
佐々木多美子	中原慎三	徳永裕人	喜納和善	石塚勝郎	日高慎一	朝来野展生	西平千治	井上和洋	城後武史	花田一芳	大森勲	谷脇和隆	谷村雄二	松本勝次	溝測正臣	中原和昭	徳田公裕	山田忠男	西村捷義	鷺尾実	
東京	東京	東京	沖縄縄	鹿児島	宮崎	大分	長崎	佐賀	福岡(中)	福岡(小)	熊本	高知	愛媛	徳島	香川	山口	岡山	鳥根	鳥取	広島	

理事会報告

日時 平成29年6月1日(木)

午後1時より4時まで

会場 江戸東京博物館 会議室

出席者 正副会長、常任理事、

理事、監事等 72名

司会・進行 総務部 藤崎武利

※物故者のご冥福を祈り、黙祷

1、開会の挨拶 副会長 西平千治

2、会長挨拶 会長 戸張敦雄

3、平成28年度会務報告 総務部長 入子祐三

4、平成28年度決算報告・監査報告 会計部長 三上裕三

5、「役員選出」並びに「総会宣言の文案作成」について 監事 菊池成夫

9地区の副会長による役員選出委員会、総会宣言の文案作成委員会を開催

そのため理事会は暫時休憩

◇再開◇

6、総会の議長候補の選出 副会長 永峰 貴

副会長 西 輝昭 を選出

7、役員候補者選出報告

役員選出委員長 多田丈夫

全国連合退職校長会 綱領

われわれは 全国連合退職校長会の設立以来の歴史や活動を継承し わが国の教育の将来を見定め 会員としての自覚と誇りをもって ここに綱領を制定する

一 教育尊重の気運を高め日本の教育の振興に寄与する

一 生きがいをもって生涯学び続け 充実した生き方を實現する

一 会員の親睦を図り 福利・厚生 of 拡充に努める

一 地域の教育・文化の向上や 良好な環境の形成に尽力する

一 関係機関・団体と連携・協力して 活動の発展を図る

平成十六年六月十七日

(設立四十周年) 制定

総会宣言

少子高齢化、グローバル化の進展する不透明な時代を、たくましく、しなやかに生きていく人材の育成には、教育尊重の気運を高め、「社会総がかり」で教育を行うことが大切である。また、今日の社会保障制度改革の動向を見据えて、会員の福祉の増進に努める必要がある。

この時に当たり、全国連合退職校長会は「現状の満足は、その基盤の瓦解につながる」との思いを強くして知恵と工夫を念頭に、各都道府県退職校長会の連合体としての活動を進めていく。

総会において、ここに左記事項の實現に尽力することを宣言する。

記

一 各都道府県退職校長会との連携を密にし 健全な教育世論を喚起し 教育の振興に寄与する

一 質の高い教育を實現するため 教育条件の整備・充実を期し 政府・関係機関への要望や意見具申を強化する

一 将来展望の持てる年金制度をはじめ 高齢者の負担が過重にならないよう配慮した持続可能な社会保障制度の確立に寄与する

一 会員の福祉の増進に努めるとともに 相互の研修・親睦を深め 組織の拡充・活性化を着実に進める

一 学校支援事業や社会貢献活動など 生きがいのある生涯学習を實踐し 家庭や地域の教育・文化の振興に寄与する

一 国民挙って教育の在り方を考える日として 国民の祝日「教育の日」の制定と活動内容の充実を図るため 関係機関や団体とともにその推進に努める

一 東日本大震災・原発事故並びに熊本地震等で被災された地域の復興と教育環境の正常化のために 会員の相互扶助と連帯の精神に基づいて支援に努める

平成二十九年六月二日

第五十三回 全国連合退職校長会 総会

8、平成29年度活動目標(案)
並びに事業計画(案)
各部長・委員長

9、平成29年度予算案
会計部長 三上裕三 (P8・9)

10、「総会宣言」文案発表
文案作成委員長 大山明夫 (P11・12)

11、その他
(1)各部・委員会からの調査・報告等について
①各退職校長会の「平成29年度の概要」の提出
総務部長 入子祐三

②「加入状況調査」について
総務部長 入子祐三

③生涯福祉関係調査
生涯福祉部長 岡野仁司

④教育課題関係調査
教育課題委員長 田中昭光

(2)教育図書 of 出版について
出版事業委員長補佐 藤崎武利

(3)教育新聞への連載「活躍する退職校長会」紹介記事の継続
総務部長 入子祐三

12、全連退の歌
「光にかけて」の斉唱
指揮 中原慎三

13、閉会の挨拶
副会長 後藤忠雄

平成29年度 事業計画

目 標

全国連合退職校長会は教育尊重の気運を高め、教育振興への寄与と会員の福祉の増進に資することを目的とした組織活動の成果を基盤として、諸活動の円滑な運営に努め、各都道府県退職校長会相互の連携を密にし、連合体としての充実した活動を展開する。

育の振興に寄与する。

3 安心できる社会保障制度の確立、並びに叙勲卒の拡大等について関係機関に要望を行い、会員の福祉の増進に努める。

4 豊かな経験を生かし、学校支援事業や地域福祉等、社会貢献活動を通して、家庭や地域の教育・文化の振興に努め、良好な地域社会の形成に寄与する。

5 生きがいのある生涯学習を実践し、会員の交流活動や研修・親睦を深め、豊かな生き方の実現に努める。

6 会報等諸情報の共有により共通理解を図り、会員相互の絆を大切にして組織の活性化に努める。

7 国民挙って教育の在り方を考える日として、国民の祝日

「教育の日」の制定並びにその活動内容の充実を図り、教育尊重の気運の喚起・醸成に努める。

8 東日本大震災・原発事故並びに熊本地震等で被災された地域の復興と教育環境の正常化のために、会員の相互扶助と連帯の精神に基づいて支援に努める。

9 教育関係機関・団体と連携し、相互の協力・交流を深め、諸事業の円滑な運営に努める。

総 務 部

1 本会の綱領や教育憲章の精神及び各退職校長会の意向を踏まえ、年度の目標を定め、

各組織間の連絡・調整・相談等にあたりとともに、諸事業の円滑な進行、諸課題の解決に努める。

2 総会、理事会、副会長会、常任理事会等の企画・運営に

当たる。また記念講演の企画・実施に努める。

3 関係省庁や中央教育審議会等への要望・意見具申・提言に努める。

4 文部科学省初等中等教育局長との教育懇談会の企画・実現に努める。

5 全国組織の教育関係団体と連携するとともにその支援に努め、本会の存在意義の高揚を図る。

6 全連退情報の発行に努め、各都道府県退職校長会への迅速な情報提供をするとともに、情報の共有化を図り会員の連帯感の醸成に努める。

7 「平成29年度年間紀要」の編集発行に努める。

8 「平成30年度の目標・総会宣言」の素案を作成する。

9 「財務状況健全化検討会議」「組織対策検討会議」「運営対策会議」の検討結果を部長会・常任理事会等に諮り、成

果の具現に努める。

10 研修会を企画・運営し、情報収集に努める。

教育振興部

1 「教育の日」について、未制定県・市町村の制定推進並びに国民の祝日としての制定を国会議員へ要望するとともに、制定都道府県・市町村の事業の充実に寄与する。

また、「教育の日制定20年の歩み」（冊子）の作成に着手する。

2 学校は現在多くの課題を抱えながらも懸命な努力をしている。全連退としてその学校の課題を調査研究し今後の教育振興に役立てる。

3 「全連退教育憲章」の趣旨の徹底・普及に努める。

4 教育振興に関する関係機関への意見具申・要請活動等の素案を検討する。

生涯福祉部

1 生涯学習活動の振興・充実に係る情報の収集と広報に努める。

2 会員並びに後進の生活安定・安全に係る情報の収集と広報に努める。

3 年金・高齢者医療・介護等の制度の改善・充実に係る全連退の提言・意見を日本退職公務員連盟等と連携して関係省庁に要望する。

4 叙勲における義務教育関係者の格上げと叙勲枠の拡大を関係省庁に要望する。

5 米寿・上寿を迎える会員を調査し、賀詞・寿詞を贈り長寿を慶祝する。

広報部

1 全連退の機関紙として会報には、主要な会議や中央省庁等への要望活動、教育情報等を掲載する。

を掲載する。

2 本年度は、年4回（204号、207号）の会報を発行する。発行予定日は、6月30日、9月30日、1月1日、3月15日とする。

3 新会員勧誘支援用として、206号（1月1日号）を希望する都道府県に増配する。

4 全連退ホームページの更新を適宜行う。

会計部

1 各都道府県退職校長会と密接な連携を図り、会員数の確保や会費の増収に努める。

2 諸事業が順調に進められるよう、財務の適切な執行・運用に努める。

3 今後の組織を支え、会務の円滑な推進を図るために、「財務状況健全化検討会議」を継続し、未来につながる対応策を検討する。

教育課題委員会

1 児童・生徒の学習意欲の喚起に資する教育環境について研究する。

2 中央教育審議会等の審議状況を見定めて対応策等を検討する。

出版事業委員会

1 第7回の教育図書出版（子供心を育む「学校の力」）（平成30年2月上梓予定）の編集を行う。

○ 新刊図書の趣旨：学校と地域の協働・連携の下で、地域の特性・伝統・文化も生かした「心を育む教育活動」事例を「学校の力」をキーワードとして全国に紹介する。

○ 全連退の出版本らしく組織を生かし、全都道府県から原稿を収集する。